

令和5年度 第3回 大府市生涯学習審議会議事概要

日 時 令和6年3月1日（金） 午後3時00分から午後4時10分まで
場 所 大府市役所 地下会議室 001・002
出席委員 会長 池田逸夫、副会長 池田美代子
上野忍、相羽誠二、神田由美、館内三郎、石黒公子、大橋房代、
山田由理佳、山本友和、井上啓子
事務局 副市長 山内健次、
市民協働部長 近藤真一、
協働推進課長 奥村喜美子、協働推進課担当課長 竹田守孝
共長公民館長 古田功治、神田公民館長 北井康弘
協働推進生涯学習係長 平松雅也、協働推進生涯学習係技師 佐々木宏孝
傍聴者 なし

1 副市長あいさつ

日頃は本市の生涯学習の推進に多大なるご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、時が経つのは早いもので、今年度も残すところあと一ヶ月となりました。今年度は、5月から新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類相当に変わったということで、市の事業につきましても、イベント等は制限することなくフルスペックで実施することができました。

特に秋に入ってから、各地域で様々な行事を開催しました。公民館まつりを始め、芸能祭、産業文化まつり、七福神巡り、盆梅展、どぶろくまつりなど、いずれも非常に多くの参加者で賑わい、大変嬉しく思っております。来年度につきましても、新たな創意工夫を加えながら、市の各事業をさらに盛り上げてまいります。

また、現在二ツ池公園の河津桜が満開でありまして、新たな取組として、3月2日と3日に河津桜を中心としたイベントである「二ツ池公園さくらまつり」を開催します。当日はキッチンカーの出店やバイオリンの演奏等、様々な催しもありますので、ぜひ足をお運びください。

最後になりますが、本日の審議会では来年度の生涯学習事業の計画案を含めた議題を4点と、報告事項を2点挙げさせていただいておりますので、皆様方から忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

2 会長あいさつ

今年度の冬は大変暖かく、過ごしやすい季節でございました。現在は梅の花が咲く季節であり、自宅の庭では紅梅が咲いております。この次は、前年度より早く、ソメイヨシノの花が咲くのではないかと考えております。

本日は、今年度最後の審議会でございます。いくつかの議題が挙がっておりますので、よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

3 議題

(1) 令和6年度生涯学習事業計画(案)について(資料No.1)

事務局：資料No.1に基づいて説明

(委員) 自己充実は大切だと思うが、地域社会での自己の役割や貢献も重要だと思う。例えば、おやじの学び舎のような公民館講座で学んだ知識やスキルを地域社会に還元することが、自己の成長と地域の発展につながり、第二の人生として、地域社会での役割を充実させることにもつながる。その仕組み作りについて、市で実施していることはあるか。

(事務局) 公民館講座の中には、地域の住民が自ら講師となって講座を企画し開催する、市民講師企画講座というものがある。今年度初めて講座を開催したいという方もいたが、これまで地域の様々な人達に支えられてきたことに対し、自らの経験や知識を生かして、地域へ感謝の気持ちを伝えたいということであった。このように公民館講座の開催を通して、地域への貢献を生む好循環が生まれていると感じている。

(委員) 最近、担い手の高齢化等により、公民館での活動団体が減少している傾向がある。このような状況に危機感を抱いており、団体の育成に力を入れる必要があると感じている。個人での活動から団体での活動に移行することで、学んだ知識を共有し、自己実現や自己充実を図ることができるため、地域にとっても有益だと思う。この点について、団体化促進のための具体的な支援やサポートの工夫が必要であると思うが、市ではどのように考えているか。

(事務局) 公民館で活動する団体は確かに減少しており、高齢化により参加者が少なくなり、活動を辞める団体も多い。団体化を促す取組として各公民館で実施しているものとして、公民館講座の終了後に、参加者同士で学んだことを共有してもらうよう呼びかけ、それをきっかけに団体化を促している。なかなか団体化まで至らないことが現状だが、今後もこのような取組を続けていく。

(委員) 大府公民館事業の重点目標の中に「まちづくり」という言葉があるが、どのような講座がそれに関連するのか、代表的なものを教えてほしい。

(事務局) まちづくりに直接関連する内容の講座と言われると挙げることは少し難しいが、例えば地域の歴史を親子で学ぶ内容の講座等を通して、まずは自分が住んでいるまちのことに興味や関心をもってもらうということや、講座以外にも、公民館まつり等の行事を通して、地域の人が集まって賑わいを創出することで、まちづくりにつなげていきたいと考えている。

(委員) 横根公民館事業のプログラミングの講座の改善点に、ロボットやドローンなどを使用するとあるが、プログラミング教育というものは、プログ

プログラミング的思考を育てるためのものである。必ずしもパソコンやタブレットなどのツールを使う必要はないと思っている。そのため、この講座に参加した方が、ロボットやドローンを使うことがプログラミング教育なのかと思いかねない。もちろん、ロボットやドローンを使う方が内容的にも視覚的にもわかりやすく、参加者の興味や関心が深まるため、使用するよう事業を改善することにしたのだろうとは思いますが、この講座のプログラミング教育というのは、論理的な思考の教育を目的とするものではないのか。

(事務局) 参加するこどもの保護者に対し、小学校の教育では今こんなことをやっているのだということを知りやすく理解してもらいたいという狙いもあり、ロボットやドローンを使用することを検討しているが、内容的には論理的な思考力を学ぶことができるような方向で考えている。

(委員) 吉田公民館事業のバイオリン演奏体験について、障がいのある方を対象とし、地域の方とふれあう機会としていることはとても良いことだと思う。この講座について、どのような障がいを持つ方を対象としているのかということも含め、具体的な実施内容を教えてほしい。

(事務局) 対象は社会福祉法人憩の郷の利用者を予定しており、講座の内容については、バイオリンの音の出る仕組みを理解することができる体験型の講座にしたいと考えている。

(委員) 小学校でのプログラミング教育は、単にICTを使ったものだけではなく、プログラミング的思考方法を身につけ、それを論理的に展開していくことを目指している。つまり、ICTを使わなくても、算数や国語など、あらゆる教科においてプログラミング的思考を養うことができるということである。しかし、ICTを使用するというイメージが強く、こどもたちもそのように理解していることが多いため、実際には機材やツールを使いながらプログラミング的思考方法を学んでいるのが現状である。しかし、可能であれば、機材を使用した方がよりこどもの興味や関心を引くことができるし、公民館講座として実施するのであれば、参加するこどもやその保護者も、機材やツールを使用するイメージを持っているのかなと思うので、ロボットやドローンといったものを使用して実際の動き方が見えることができれば、より興味を持ってもらえると思うので、公民館講座としてはより面白いものになるのかなと思う。

また、バイオリン教室の講座の課題として、バイオリンの数が少なく、一人一挺使用することができない場合があるということが挙げられているが、小学校の授業ではクラスの全員分のバイオリンを、関係各所からご協力頂いて準備している。市の講座でも、交渉次第では1日借りることくらいは可能かなと思うので、その調整次第では、参加者がより多くバイオリンを体験できる機会を作ることができると思う。

(委員) 私が知る限り、20年以上前から講座の講師への謝礼の金額が変わっていない。時給だけで考えると現状でも十分なのかなという印象を受けるか

も知れないが、一つの講座を開催するまでに、関係者同士で打ち合せを重ねたり、材料の準備をしたりすること等、見えない部分で手間や時間はかかっている。また、最近の物価上昇の状況を考えると、多少謝礼の金額を上げることを検討した方が良いのではないかなと思う。

(事務局) 他方面からのご意見は何っているので、金額やその妥当性について、時間を頂きながら、今後どうすべきかというところを情報共有して考えていく。

(2) 令和6年度大府市生涯学習データベース(案)及び各課の重点取り組み事業について(資料No.2)

事務局: 資料No.2に基づいて説明
(質問、意見等なし)

(3) 大府市学習支援事業「まなポート」利用対象者の拡充について(資料No.3)

事務局: 資料No.3に基づいて説明

(委員) まなポートに参加している中学生の女の子が、コラビアまつりのボランティアに参加してくれる。彼女から私たちに参加したいと声をかけてくれたので嬉しかった。まなポートの活動の様子を見学することがあるが、勉強だけではなく、休憩時に遊んだりして、のびのびやっていると感じる。これから小学生にも事業を拡げていくということで、こどもたちと関わる機会がさらに増えることを楽しみにしている。

(委員) 小学校の勉強で躓く子の中には、わからないと言える子もいれば言えない子もいる。わからないまま進級や進学をしていくと、勉強がよりわからなくなってしまうケースが多くなる。そのため、このように小学校の時から、学校以外で勉強を教えてもらえる機会があると、きっと救われる子も出てくると思うし、保護者も安心できると思う。また、地域によって参加者数に差があり、特に北山小学校と共長小学校からの参加は少ないということを知った。地域ごとの特徴と何か関係があるのかもしれないと思うので、一年後、地域によって参加者数が異なる理由を分析したものがもしあれば、教えてもらえると嬉しく思う。

(事務局) 委員からも今お話があったように、学校の勉強に少し遅れてしまった場合などはなるべく早いところで手を打った方がいいということは以前から認識している。来年度から小学4年生までに対象を拡充したことに対して委員の方から応援いただいたこと感謝申し上げます。なお、補足で説明させていただくと、小学生である間は、まだ保護者と一緒に過ごす時間も、社会教育の一分野である家庭教育と両立させなければならないと考えているため、小学生は毎週ではなく隔週で実施する予定である。また、地域性に関しての分析については、今後開催する本審議会の中で、運営状況の報告をさせていただく予定である。

(委員) まなポートは「おおぶこども輝く未来応援八策」に基づく事業というところであるが、昨年度はこの計画とは関係なかったのか。

(事務局) 元々、「おおぶ子ども・子育て八策」に基づく事業としてまなポートを実施していた。今回グレードアップするような形で、こども・子育てを総合的に支援する梁となる施策として、新たに「おおぶこども輝く未来応援八策」が策定されたため、当然、まなポートもその中のひとつの事業として位置付けられている。

(委員) 小学生まで対象を拡充したことはとても良い取組だと思う。会場は4つの公民館で変わらず、申し込み多数の場合は抽選ということだが、もし多くの方が申し込んでいるのであれば、会場の公民館を増やすなど、柔軟に対応策を考えていただきたいと思う。そうすればより多くのこども達が学びの機会を得ることができると思うので、実施状況の分析次第ではあると思うが、対応をお願いしたいと思う。

(事務局) 来年度から小学生も対象にすることについて、サポーターとしてどれだけの方々に支援していただけるか、またこども達に参加していただけるかなどを考慮し、今後の事業規模についても検討していきたいと思う。

(4) 令和6年度「永田雅宜氏プロジェクト」の実施について（資料No.4）

事務局：資料No.4に基づいて説明

（質問、意見等なし）

4 報告事項

(1) 第35回大府市生涯学習研究集会の報告について（資料No.5）

事務局：資料No.5に基づいて説明

（質問、意見等なし）

(2) 第76回文部科学省優良公民館表彰について（資料No.6）

事務局：資料No.6に基づいて説明

（質問、意見等なし）

5 市民協働部長あいさつ

本日は長時間に渡り、ご審議いただきありがとうございます。議題の1、生涯学習事業計画（案）につきましては、公民館を利用している団体が減少している現状において、団体が活動しやすい支援をどう考えていくのかというご意見をいただきました。議題の3、大府市学習支援事業「まなポート」の利用対象者の拡充につきましては、私ども事務局にとっては大変喜ばしいご意見をいただきましたので、スムーズに事業の実施ができるようしっかりと準備してまいります。また議題の4、令和6年度「永田雅宜氏プロジェクト」の実施につきましては、偉大な数学者が大府市にいたということ踏まえて、さらに情報発信を強めてまいりたいと思います。

本日、多方面からご審議をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。来年度の審議会におきましては、皆様からいただきましたご意見が、どのように実際の事業に活かされていくのかということが大事になってまいりますので、進捗状況の報告をさせていただきながらご審議を頂きたいと考えております。本日はどうもありがとうございました。